

うめづしんぶん 梅津新聞

(中世編③)

2020年
6月2日火曜日
常陸太田市郷土資料館
(西二町 2186)
TEL:0294-72-3201

くわしくふりかえる佐竹氏の470年間(2)

秀義 頼朝から旗印を与えられる

金砂合戦のことを知った平氏は、源頼朝軍をおびやかすため、朝廷を守るために京都にいた佐竹氏3代隆義に協力を要請しました。重要な任務を果たすべく常陸国へと帰ってきた隆義ですが、このころ、源氏と平氏の関係や東国の社会に大きな変化が起こっていました。

平氏の方は中心人物だった平清盛が亡くなり、一門が衰退し始めていました。一方源氏は、頼朝が後白河法皇から東国支配の権利を保証されることになり、常陸国内での勢力が拡大する状況にありました。こうした動きから、佐竹氏の中でも以前のような打倒頼朝といった執念は日に日に弱まっており、

隆義自身も寿永2年(1183)5月、平氏から受けた任務を果たすことなくこの世を去りました。

さて、金砂合戦に敗れた花園山に身を隠していた隆義の子秀義ですが、一族の間分裂の動きがあったり、頼りにしていた平家が滅亡してしまったりなど、苦境におちいつていました。その間も頼朝は常陸国内での勢力を広げており、しだいに秀義は態度をひるがえし、頼朝に従うことを決めました。

文治5年(1189)、頼朝は奥州藤原氏を討つため、平泉に向かいました。一行が宇都宮を通った時に、秀義は頼朝に反逆の意思がないことを伝え、忠誠を誓います。その時秀義が持っていたのは、源氏の旗である「無文白旗」でした。同じ源氏である頼朝の旗と一

緒だったことから、頼朝は赤月印五本骨軍扇を秀義に与え、旗印とさせました。

佐竹氏、大活躍

1334年、鎌倉幕府を滅ぼした後醍醐天皇は、幕府の本拠地であった鎌倉に鎌倉将軍府を置き、倒幕に参加した足利尊氏の弟、直義が鎌倉に入りました。

建武2年(1335)、鎌倉幕府のトツプだった北条高時の子時行が、幕府再興を計画し、鎌倉に攻め入りました。佐竹氏9代貞義は直義を助けるため、兵を連れて鎌倉へ向かいました。一度は劣勢になりましたが、京都より駆けつけた尊氏軍が合流し、時行軍を破ります。この時後醍醐天皇の命令を無視して兵を出した尊氏は、そのまま鎌倉にとどまり、直義とともに

に武家政治の再興を図りました。

それから天皇方(南朝)と足利方(北朝)の対立が深まり、南北朝の動乱が始まっていきます。この動乱において佐竹氏9代貞義は足利方とともに行動し、様々な功績をあげ、常陸守護職※1に任命されて常陸国を支配するようになります。

※1 守護職：鎌倉時代からある職で、地方の国内の御家人の統率と管理を行う役目です。

7代 善胤【1227-1278】

長義の長男。讃岐守・常陸介に任命される。鎌倉の比企谷に館に住んだ。52歳没。

8代 行義【1263-1305】

勝楽寺の境内に南明山正法寺を建て、伏見院より正法院の額をもらう。43歳没。

9代 貞義【1287-1352】

1331年の元弘の乱では、鎌倉幕府の笠置山攻めに参加。のち足利尊氏に従って各地で戦った。66歳没。

10代 義篤【1311-1362】

正宗寺の開山である夢窓疎石に禅を学び、剃髪して浄喜と号する。52歳没。

3代 隆義【1118-1183】

居城を馬坂城から太田城に移した。金砂山の戦いのときは、朝廷守護のため京都にいた。66歳没。

4代 秀義【1151-1226】

1180年に頼朝の軍から攻撃を受け、金砂山城にこもって抵抗したが落城し、領地を没収された。1189年に頼朝に面会して許され、後に家紋となる軍扇をもらう。75歳没。

5代 義重【1186-1252】

承久の乱(1221)の際、北条泰時に従って京都に行き、宇治川の戦いで功績をあげた。67歳没。

6代 長義【1207-1272】

義重の長男。常陸介に任命される。66歳没。

佐竹氏と寺

佐竹氏の菩提寺※1 正宗寺

正宗寺は増井町にある臨済宗円覚寺派のお寺で、延長元年(923)平良将(将門の父)が律宗の増井寺を建てたことが始まりとされています。天喜5年(1057)源義家が前九年の役

※2 に向かう途中、朝敵調伏の祈願を行ったことをきっかけに、宗派が真言宗に、名前が勝楽寺に変わりました。

鎌倉時代には佐竹氏の菩提寺となり、4代秀義が寺の境内に正法院を建て、正法院が火災により焼けてしまった後は、8代行義が正法寺を建てました。

9代貞義の子 月山周樞は早くに出家して、臨済宗の僧である夢窓国師(夢窓疎石)の元で学び、正法寺に帰ると寺を臨済宗に改めました。そして勢いが衰えていた勝楽寺・正法寺を再び盛り上げるため、師の夢窓国師を勧請開山※3とし、自身は開基2世を称して境内に正宗庵を建てました。

室町時代になると10代義篤が庵を寺

と改めて正宗寺が初めて興ります。そして寺は佐竹氏の保護を受け、関東十刹

※4 のひとつにまでなりましたが、天保9年(1838)、総門を残して焼失してしまいました(現在の本堂は昭和63年(1988)に建てられました)。

※1 菩提寺…先祖代々の墓や位牌をおく寺のこと。

※2 前九年の役…平安時代後期、東北地方で勢力をのぼし、国府に税金などを納めなかった安倍氏を、朝廷から命令で源頼義、義家が討伐した戦い。「朝敵」とは朝廷にそむく敵のことで、ここでは安倍氏のことを指します。

※3 勧請開山…その寺の創始者(開山)でない僧を開山として信仰すること。

※4 関東十刹…関東五山(臨済宗の格式高い5つの寺)の下位にある10の寺のことです。



【市指定文化財】
正宗寺総門

佐竹氏代々の祈願所 佐竹寺

佐竹寺は天神林町にある真言宗豊山派のお寺です。寺記によれば大同2年(807)徳一大師により始まったとき

されていますが、「坂東霊場記」には寛和元年(985)元密上人が建てたものとも伝えられています。当初は「洞崎の峰」という場所に建てられ観音寺という名前だったそうです。

治承元年(1117)初代昌義から領地として300貫を与えられ、佐竹氏の菩提所となりました。

文永6年(1269)6代長義が観音堂を再建し、佐竹寺と名を改めました。が、天文12年(1543)戦により焼

失しました。その後18代義昭によって現在の場所に観音堂(現在の本堂)が建てられ、佐竹氏が秋田へ国替えとなつてからは、水戸藩第2代藩主徳川光圀による改築が行われて現在に至ります。



【国指定重要文化財】
佐竹寺本堂

知っておきたい日本史

仏教

日本に仏教が伝わったのは6世紀前半です。百濟(後の朝鮮の一部)から伝わり、その後の日本の政治・文化・生活に大きな影響を与えました。

奈良時代の仏教 国家が取り入れた学問仏教です。

律宗 戒律の研究を行い戒律を実践することで成仏できるという教え。

平安時代の仏教 それまでの仏教と違い、政治からはなれ、山奥の寺で学問やきびしい修行をすることを重視し、国の平安を祈ることが目的です。

真言宗 大日如来と一体化する「即身成仏(生きているうちに仏になること)」が修行の中心。

鎌倉時代の仏教 あいつぐ戦いに不安を感じ、仏教に救いを求める庶民などに受け入れられるよう、わかりやすく信仰しやすいものになりました。

臨済宗 座禅を行い、自力で悟る禅宗のひとつで、幕府の保護を受けていました。

